（事前配布用資料）

「大阪市港区将来ビジョン 2027-2030」　４つのポイント

１．「2030 年のありたい姿」を前面に出したビジョン

→現行ビジョンよりも具体的に「まちの将来像」を掲げ、その実現に向け、政策テーマごとに施策の方向性を記載したこと

２．区政会議委員のみなさまと共に策定したビジョン

→「ありたい将来像」のイメージ共有、盛り込みたいキーワードの検討など、区政会議での議論を通じて具体化した、みなさまの思いや考えを随所に取り入れたこと

３．ＳＤＧｓの理念を活かしたビジョン（区民わがことＳＤＧｓとの連動）

→当区が選定したＳＤＧｓゴール「＃１１　住み続けられるまちづくりを」を本ビジョンの理念を基本に据え、住みたい、住み続けたい港区の実現に資する内容を盛り込んだこと

４．将来ビジョンと区運営方針との役割分担

→将来ビジョンでは「定性的な目標」を掲げ、その実現に向けた各年度ごとの「区運営方針」に具体策を掲げ、時宜に得た取組みの推進に資する構成としたこと

参考

大阪市港区将来ビジョン(2027－2030)

現行の「まちづくりビジョン」との変更点／新たな項目比較について

現行ビジョン	将来ビジョン
【はじめに】 ・大阪・関西万博の開催 ・人口減少	【はじめに】 ・外国籍住民の増加 ・人口動態や暮らし方の変化
【第１章～第４章】 ➢ **「区民主体のまちづくり」「安全・安心快適なまちづくり」** ・マルチパートナーシップの推進 ・コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスの取組 ・多文化共生視点・女性視点の防災の推進 ・港区防災サポーター登録制度 ・津波浸水時の区を超えた避難計画 ・こどもを犯罪から守る取組強化(こども１１０番の家) ・自転車利用者のヘルメット着用努力義務 ・花と緑を育てる活動と街の美化促進 ・空家等対策	【第１章～第２章、第３章（２）】 ➢ **「地域のつながりと安心を感じられるまち」** ・小学校再編による地域活動のあり方の変化 ・２つの区役所附設会館と区内施設・資源を活用したコミュニティの育成 ・やさしい日本語・多言語対応の推進 ・自転車等の増加 ・自転車に対する交通反則通告制度（青切符）導入
➢ **「だれもが健やかにいきいきと暮らせるまちづくり」** ・「港区地域福祉計画」と各地域の「地域福祉活動計画」による「公私協働」 ・地域包括ケアシステムの構築 ・LGBTQ（性の多様性）・ヘイトスピーチ等への人権啓発	➢ **「だれもがいきいきと健やかに暮らせるまちづくり」** ・安心して暮らし続ける基盤整備（関係機関の連携強化や専門職のスキルアップ） ・健康づくりへの関心・取組の格差 ・健康フェスタなど身近な健康づくりイベントの充実

➢ **「まちぐるみで子育て」と「多様な学び」を応援** ・待機児童セロをめざす ・分権型教育行政を推進 ・子どもの学力・体力の向上 ・子どもの読書活動の推進	➢ **「みんなで子育て」と「多様な学び」が広がるまち」** ・こども家庭センター機能のさらなる充実 ・子育てマップ等の情報発信の強化 ・大阪市教育振興基本計画における「豊かな心の育成」を推進
➢ **訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり** ・築港・天保山まちづくり計画の推進 ・中部エリアには国際レベルの競技可能施設 ・商工業者へのビジネス機会の提供（事業者間連携・マッチングをサポート） ・万博を契機とした事業者との更なる連携強化	➢ **さまざまな魅力と連携を活かした賑わいあるまち** ・弁天町駅周辺まちづくりビジョン ・３小学校の統合・再編 ・２中学校の統合・閉校 ・中部エリア全体のリ・ブライニング ・大阪 IR の開業 ・「ものづくりのまち」としての取組 ・魅力発信を通じたシビックプライドの醸成とシティプロモ―ジョンの強化 ・「みなトクモン」を活用した区の魅力発信
【第５章】 ・分権型教育行政のもと、保護者・地域住民の学校教育への参加促進、意向等を学校運営に反映	【第３章（１）（３）】 ・効果的な広聴・広報サイクルの推進 ・区内関係機関との有機的な連携